

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)、取組2)、取組3)】

脳トレプリント等を活用した認知症予防の取り組み（全市展開）

昨年度東区から始まった脳トレプリントを活用した小人数、短時間で集うサロンの方法を全市的に展開。校区福祉委員会や自主活動グループへコロナ禍の取組として提案を行った。

支援・調整

- 脳トレプリントや広報物の作成し提供。
- 授産活動支援センターを通じて堺市内の障害者授産施設より記念品を調達し提供。

各団体が実施

- ①高齢者へお元気ですか訪問活動等で脳トレプリントとスタンプカードを配布。
- ②自宅で取組んでもらう。
- ③月1回会館等に来てもらい、スタンプを押印。
- ④スタンプを貯めた方へ記念品を贈呈。



効果

- 187団体4,200枚を配布（令和3年12月時点）
- 自宅で脳トレの機会創出
- 外出し短時間の交流の機会創出
- 障害者授産施設の作業機会や売上に貢献

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○日常生活圏域コーディネーターによる支援【取組1)、取組2)、取組3)】

苦手でも参加できるオンラインサロン参加拠点の拡大 (西区)

協働企画

オンラインが苦手な人も密を避けてオンラインサロンに参加できる拠点とプログラムの充実をコーディネート。
令和2年度堺市デジタルフレイル予防事業に参加した「みんなの応援室ちぐさのもり」のオンラインサロンの継続を支援。



みんなの応援室ちぐさのもり参加者とスタッフの皆さん

事業所の理学療法士に体操指導 (上) ドラッグストア拠点 (下)

デイサービス利用者も参加 (上) 社会福祉法人より部屋とWi-Fi環境の提供 (下)

支援・調整

- 社会福祉法人の施設やカフェ、ドラッグストア、個人宅等へ、参加拠点協力の働きかけ
- プログラム充実のため、体操指導者として介護事業所の理学療法士へ協力の呼びかけ
- 活動者と協力者の対話の場面をコーディネート

効果

- 多様な主体の協力により、参加拠点5カ所へ拡大
- オンラインが苦手な人も参加しやすくなった
- オンラインと対面、平時と感染症拡大時、各場面に応じてつながり続ける活動が可能となった

基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○令和3年度校区福祉委員会における取組の工夫【取組1)、取組2)、取組3)】

ふれあい食事会の再開をめざして、つながり続ける工夫（東区日置荘校区）

- 校区内6か所で毎月行っていたふれあい食事会の再開が難しい中でも活動を休止することなく柔軟に変化。
- 簡易なお茶会や短時間の集いのみ開催、緊急事態宣言下でも校区からの手紙や脳トレや体操等の情報を持って距離を保った個別声掛け訪問、食事のテイクアウト配布など。
- 厳しい状況下だからこそつながり続ける必要があると創意工夫の上開催

日常生活圏域コーディネーターの関与

協議の場に参加し、感染症対策の確認や開催形態などの企画に協力。



塗り絵など作業中心の集いの場



食事会伝統の炭焼きサンマ
(テイクアウト形式)



簡易なお茶会形式で開催



基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、 多様な人や組織の参加と協働ですすすめます

重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○令和3年度校区福祉委員会における取組の工夫【取組1)、取組2)、取組3)】

少人数で日ごろのことを話し合える場「ちょこっと寄合所」（北区大泉校区）

- 毎月4回開催の校区ボランティアビューローの内容を拡充し、いわゆる3密を避けて少人数で気軽に集まれる場「ちょこっと寄合所」にリニューアル。
- 編み物や健康マージャンなど、1人や少人数でできる新たなプログラムを用意。
- 月1回は地域包括支援センターと社会福祉協議会北区事務所が福祉の専門相談会を実施。

日常生活圏域コーディネーターの関与

協議の場に参加し、コロナ禍での活動方法や既存活動の活性化について企画協力。また広報物の作成や高齢者の支援機関へ協力の呼びかけを行った。



**基本目標② “ともに暮らすまち”づくりを、
多様な人や組織の参加と協働ですすめます**



重点施策 [3] 多様な居場所づくりや地域福祉活動への支援

取り組む方向性 2 つながりをつくる

○今後の課題

新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況等を受けて、その影響下にあることを前提として、地域における福祉活動をどのように進めていくかが大きな課題となっている。

- ◎参加しやすい「居場所」のさらなる確保【取組1)②】
- ◎「居場所」での相談や課題解決に向けた取組の推進【取組1)②】
- ◎多様な人の参加の促進等【取組1)③、取組2)②～③】
- ◎効果的な情報提供【取組1)③】
- ◎多様な主体との連携【取組3)②】
- ◎有償やビジネスの視点を含めた活動【取組3)③】